



今回は、AFS でブラジルに留学している関高生の中間報告です。

◇ Brasil! Eu te amo! (ブラジル、愛してる!)

田原 晃成

## 新生活、そして友人との出会い

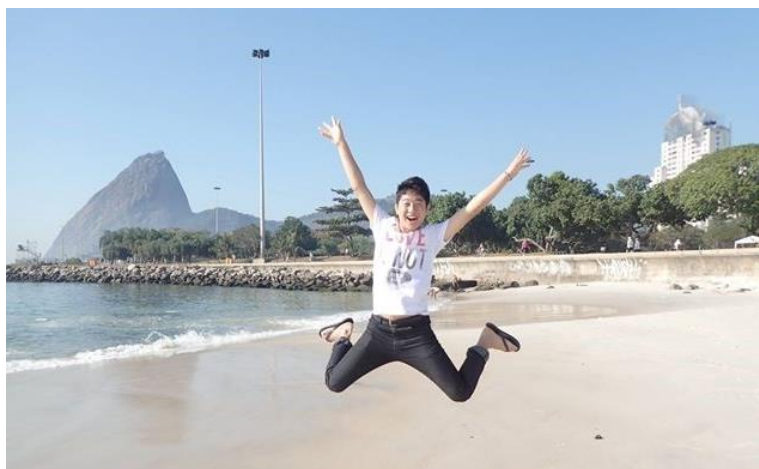
ブラジルでの新しい生活が始まり、はや半年が経ちました。毎日が新しい刺激にあふれ、充実した日々を送っています。これから、このブラジルでの新しい生活について書こうと思います。はじめに、私の大切なブラジルの友だちについてです。私の友だちは毎日のように、私のことを Oi meu irmão! (私の弟) や Nos te amos você (私たちはあなたが大好き)と呼んでくれます。そんな、人懐っこく兄弟のように思ってくれる友だちが、私は大好きです。

次に、世界の友だちについてです。AFS のオリエンテーションやアマゾンへの旅行を通して、たくさんの方々が世界中に出来ました。そんな人たちの多様なものの見方・考え方は、私にとって本当に興味深いものです。また、世界の人たちと友だちになって、自分の思っていた世界というのが、これまで以上に近くなった気がしました。

例えば、この前あったトルコの国際空港でのテロ事件の時では、

トルコ人の留学生のことを心配しました。このように普段、他人事だと思って見ていた世界のニュースが、『あの留学生の国だ!』と、より興味を持って見られるようになりました。

また、この間、リオデジャネイロオリンピックに行ってきた。そこでは、人々を助けるための黄色い服を着た人が、リオデジャネイロの至る所において、私たちをすごく助けてくれました。彼らは色々な言語を話すことのできる人たちで、うらやましく思いました。閉会式での日本のプレゼンテーションでは、多くの友だちが、「閉会式の日本の総理大臣凄かったね! 面白かったよ! 次のオリンピック行きたい! その時は家泊まってもいい?」などと話しかけてくれました。「次は東京オリンピックか。私たちが頑張る番だな」と気合いが入りました。また、私が多くの仲間から助けられたように、次は私が海外から日本を訪れる人を助けてあげる番です。そして、そのためにポルトガル語や英語、または他の言語を習得して、日本についての知識をもっと深めておきたいです。



## ポルトガル語のコミュニケーション

次に、コミュニケーションについてです。ブラジルではポルトガル語が公用語です。日本には、ブラジル人がポルトガル語を喋るなんて知らない人もいます。英語、スペイン語、ドイツ語とは違い、ポルトガル語は知名度が高くない言語です。

私も留学をブラジルに決める前までは、何語を話しているのか気にもしませんでしたし、ブラジル語? スペイン語? と考えていました。しかし今私は、ポルトガル語を覚える事ができました。言語を覚えることは決して簡単な事ではありませんでした。しかし、"話す"という楽しみを知り、初めは全く分からなかったポル



ポルトガル語が、今ではほぼ分かるようになりました。そこまで成長できたのは、ポルトガル語を教えてくれた友だちやホストファミリー、学校の先生のおかげです。本当に感謝したいです。

しかし、ブラジルでのコミュニケーションにおいて、まだ私が慣れるのが難しかったことがあります。それは、人との距離や、キスやハグの文化についてです。ブラジルでは、あいさつでキスやハグをします。そんな、日本にはない文化に恥ずかしさや戸惑いがありました。

また、ブラジル人はみんな好奇心旺盛で、知らない人にでも進んで話しかけて話を弾ませます。私はアジア系の顔をしているので、いろいろなことを話しかけられます。みんな、優しい人たちで楽しい会話なのですが、はじめは違和感しかありませんでした。しかし今は、ただブラジル人は、自分とは異なる日本の文化や暮らし、歴史などに興味があるのだと分かり、違和感はなくなってきました。

## ブラジルの“フェスタ”、そして今後の目標

次に、大好きなブラジルの“フェスタ”について話します。“フェスタ”では時間を忘れて踊りまわります。そこで、新しい友だちと出会ったり、ブラジルの音楽を覚えたりします。日本では、普段経験できないブラジルの“フェスタ”が大好きになりました。日本に帰ったら、こういった“フェスタ”を開いてみたいと思います。

最後に、留学生活の残りの半年についてです。これからの留学の目標は、ブラジル人になることです。明るくて陽気で、人懐っこくて、音楽がかかればすぐに踊り歌い、友だちを兄弟のように大切にできるブラジル人。日本の文化とはとても違いが多く、時に理解が難しいこともありますが、大好きなブラジルに、もっと浸ってさらに多くを学んでいきたいと思っています。

